

(再開 午後2時10分)

**議長（勝山 正）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

4番、山本隆樹議員。

(「はい、議長。4番。」の声あり)

(4番 山本隆樹 議員 登壇)

## **1. 下高井農林高校の将来像は**

**4番 山本隆樹 議員**

では、通告に基づき、下高井農林高校の将来像について質問いたします。

再編の話は、2018年に高校改革の中で、具体的に再編整備計画の方針が示されました。その後、岳北地域の高校の将来像を考える協議会、また、2校の存続を視野に、岳北地域高校の魅力づくり研究会が立ち上げられ、協議、検討されてきました。

下高井農林高校も地域振興、地域活性化の拠点校としての役割を明確にし、地域創造に関連する専門領域に特化した地域産業を担う人材を育成したいと学科を改編し、地域創造農学科として取り組んでいます。

その後、各協議会からも、地域の様々な現状を鑑みて、基準の見直しを県教委に要望してきました。その経過で、中山間地存立校の再編基準で、在籍生徒数が2年連続160人以下であれば、飯山高校の地域キャンパスとするとして進められています。そのように理解しています。

今年の入学者は39人、2年生52人、3年生57人、計148人となりました。来年の入学者次第で2年連続160人を割ることになり、再編の基準となります。その現状を受け、今年1月に、県の教育委員会から高校教育における再編に関する基準等の再検討に係る意見交換会が実施されたと聞いております。

木島平村は今年70周年、下高井農林高校は来年創立120周年を迎えます。下高井農林高校の創立は、下高井郡立として当時の穂高村の住民の積極的な熱意と英断で作り上げられ、現在に至っています。今後の農林高校の将来像が木島平の人づくり、村づくりにつながります。

そこで質問いたします。

再編に関する基準等に見直しがあるのか、経過と今後の取組について伺いたい。取組の中で、再編の開始はいつ頃になるのか、今後の高校再編のスケジュールについて、併せてご説明いただきたい。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

ご質問のとおり、今年、令和7年度の下高井農林高校の入学生は39人ということで、在籍生徒数が県の教育委員会が定める再編基準の160人を割って148人ということでもあります。

そんなことで、岳北地域の1市3村の首長と教育長が集まり、これまでの経過や今後についての懇談をしております。今後も継続してお話を進めてまいりたいと思います。

ご質問については、教育長に答弁をさせます。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

それでは、これまでの経過と今後の取組についてお答えいたします。

下高井農林高校は、長野県の高校再編上は、区分では中山間地存立校となっています。そして、これまでの再編整備計画から、次のような再編基準になっています。

1つ目は、募集定員は120人以上が望ましい。

2つ目は、在籍生徒数が120人以下の状態、もしくは在籍生徒数が160人以下かつ卒業生の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない状態が2年連続した場合は再編対象として、4つ示しています。1つ目は他学校との統合、これは新しい学校をつくるということ、2つ目に地域キャンパス化、3つ目には中山間地存立特定校として、4つ目は募集停止ということで、このいずれかの方策をとるとしています。

この再編基準ですが、中山間地存立校、農林高校だけではなくて、飯山高校もこの区分に入っております。

村長答弁にもありましたが、5月7日1市3村の首長、教育長が集まり、これまでの再編整備計画の長い歴史がありますので、第一次、二次、三次の内容と、これまで県教育委員会の方へ要望してきたこと、意見書等々の内容を確認し、今後必要なこととして、将来的に学校規模の縮小や再編基準への該当等により、2校の存続が困難になった場合には下高井農林高校を飯山高校のキャンパスとすることを、現在は、このことを再編基準として同意されていることを皆さんで確認をいたしました。

そして、本年令和7年度、新入生がだいぶ少なかったわけですが、8年度の入学生数によっては在籍生徒数が160人を連続して下回ってしまいます。こういう場合には、飯山高校の地域キャンパスとすることが具体的にになっていくと思います。

さらに、旧第1通学区の中学3年生の生徒数の推移ですが、令和9年度は214人、令和10年度は186人、それ以降200人を割っていく生徒数の推移になっております。その生徒数の、去年は43%の生徒が第1通学区から外の通学区の方に通っています。ですので、数字がますます少なくなっていく。下高井農林高校の飯山高校の地域キャンパスは、もう現実のものとなっていると認識しています。

ご質問にある下高井農林高校の将来像についてですが、これあくまでも推測ですが、令和8年度、9年度の入学生の数によっては、飯山高校の地域キャンパス化の方向に具体的に検討が始まり、村や地域の方が参加しての懇話会も計画されるのではないかと推測されます。

農林高校を抱える本村においては、県教育委員会のイメージする地域キャンパス化に対して、村としての要望意見を取りまとめたり、1市3村共同で要望書を提出したりするなど、岳北地域の農業として人材育成を担っている農林高校が地域キャンパス化になっても、魅力ある学びの実現であったり、施設環境の充実が図っていかれるようにしていかなければなりません。また、在籍生徒数の処遇についても検討する内容です。

そういうこともありまして、今後、様々な検討が必要になることを前提に、今月の23日に2回目の1市3村の首長及び教育長、そこに飯山校長の校長先生、下高井農林高校の校長先生も参加し、今後の下高井農林高校、そして飯山高校についても協議していくとしております。

以上です。

#### **議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

#### **4番 山本隆樹 議員**

再質問ですが、今聞いた話では、令和8年、9年の2年連続で160人を割った場合が対象になる。そうすると、令和10年から即飯山高校のキャンパスになるかはわからないが、それを念頭に置いて対処していくというふうに理解しました。

私は元々、下高井農林高校を飯山高校のキャンパスではなく、単独での姿を描いてきました。基準の緩い中山間地存立特定校の基準、募集定員40人、在籍生徒数が120人で、単独で高校を存続させる道

を探りましたが、条件に「所在する村、地域からの支援を得ながら、高校を単独で存続する体制を整備できること」とあり、村の経営と重なり、急激な少子化の現実もあり、理想を追い詰めても廃校、募集停止の可能性が考えられる。それより、飯山高校のキャンパスとして存続する方が現実的で賢明との判断で進んでいるんだというふうに理解しました。

飯山高校のキャンパス化としての姿は、今、飯山高校は現在、普通科1クラス、探究科2クラス、スポーツ科1クラスとあります。そこに林業農業科のキャンパスが追加されるよというイメージでよろしいのでしょうか。質問です。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

具体的にはそこまでイメージがされていません。あくまでも推測になってしまいますが、現在、生徒が在籍しているわけですから、2年連続してすぐにキャンパス化というふうに、ころっと変えるわけにはなかなかいきません。中学生、中学校への説明も必要ですし、地域の方々への理解も必要ですので、これからはそういうことも含めて、今、議員さんが言われたことを含めてよりよい姿になるように検討していくのが必要ではないかなと考えています。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

今後、引き続き県教育委員会との動き、働きかけがあると思いますので、そのところをしっかりと検討していただきたいと思います。

2番目の質問に入らせていただきます。

岳北地域高校の魅力づくり研究協議会の農林高校部会で、行政、地域の財政支援として、コーディネーターを配置し、農林高校の魅力化と地域との交流調整を目指し実現しています。成果と課題をどのように受けとめられていますか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

本村では、下高井農林高校と地域を結ぶ地域連携コーディネーターを配置しております。5年目になりました。農林高校生と保育園、小学生、中学生の子供たちの交流、今は、社会福祉協議会の現場者の方々、障害を持った方々との交流もされています。また、本村の課題を学習課題とした教育活動も盛んに行われています。そこへの橋渡しを行っていただいています。下高井農林高校生と地域の交流活動は、年々充実していると認識しております。

農林高校では、北信州学として1年生が木島平村の地域を知る活動を展開しています。また、上級生にあっては、地域の課題を解決するという課題研究においても、地域との交流調整に努めていただいております。保育園、小学校の園児、子供さんからは、農林高校生は身近なお兄さんお姉さんというような、そのような意識がもたれています。

課題としてですが、校長先生、職員の方々からは、入学してくる生徒の中には農業を経験していない生徒さんもおられます。ですので、3年間で学んで次につながる進路としてつなげていくときに、農

林業を目指す生徒が少ないことが課題ではないかとおっしゃっておられました。  
以上です。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

今言われたように、地域の保育園、小学校、中学校の皆さんと農業交流を通じて、その地域の特性、魅力を見いだして、課題とか解決策を考察し、地域に提案してきたり、子供たちと農業の体験、農業の持つ大切さや楽しさを学んでいます。本当にこういうところを木島平教育の中の一環だと自分は思っているんですね。そういうところを、これからもコーディネーターと一緒に木島平教育の一環として、更なる充実を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

議員がおっしゃるとおりです。

交流は教育内容に関わっていますので、いろんな意味で、こういう活動を通して交流すること自体が木島平型教育だと思っていますので、あまり活動過多にならないように、いい交流ができるように応援していきたいと思っています。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

3番目の項目で、下高井農林高校のメッセージの中で、「チーム農林として職員、家庭、地域で基礎学力、人間力、課題解決力を育て、生徒の夢をサポートする」とあります。本当に自治体独自支援事業の中でも、村としては農業経営を実践的に学ぶための仕入れ、生産、加工、販売、流通等の取組への支援をするとしています。現状を伺いたい。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

これまでも下高井農林高校が独自で商品開発や農業経営を学ぶために、生産、加工、流通、販売に関わることで、生産者と消費者が分かれたものじゃなくて、流通プロセスでつながる農業経営を学ぶ交流は、幾度かされてきたと思っています。しかし、軌道に乗っていないというのが現状です。

ただ、5月27日に信濃毎日新聞の朝刊で「下高井農林高校そば部の応援企画を始動」と大きな見出しで記事が載りました。本年の1月より、木島平村の農業振興公社と農林高校とが検討してきた内容が具体化してきました。

そば部の活動をきっかけに、他の商品についても流通プロセスにつなげることで、農林高校のモチベーションアップにつながるのではないかなと思いますし、農林高校の特色ある活動や魅力アップにつながっていくことを期待しています。

教育委員会としては、農林高校生の要望には応えていきたいと思っています。支援をしていきたいと考

えています。  
以上です。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

先ほど言ったように、農業振興公社が農林高校とタイアップして、そばの提供、販売を通して農業経営と農林高校の魅力アップに一役買ってくれています。新聞の見出しでも読まれたと思いますが、そういう役割を今、一役買って進めていただいています。

飯山市では、高校生チャレンジ活動支援事業っていうのを2018年から実施していて、地域資源を生かした地域活性化事業計画を発表し、それが認められたら必要経費として10万円交付しますという形で、飯山市も取り組んでくれています。今のチーム農林じゃないですけど、本当に地域が応援して、学校、職員、家庭、そういう生徒の夢をサポートする体制というのは、これがキャンパス化になったとしても、これからはますます大きな役割を果たしていくと思いますが、その後のそういう村の支援というのはどう捉えていますか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

生徒が自身の研究を発表する場、それから、子供さんたち生徒さんたちの夢をサポートする環境を整えることは大変大事だと思っています。

木島平村では、学校運営協議会の中で生徒さんの発表の場を設けています。それから、子供さん生徒さんの活動を後押しする場面では、ふう太ネットさんだとか、そういう情報を発信しております。

地域キャンパスと具体的に変わったときには、今、お示しされた飯山市の例なども参考にできることはしていきたいと考えます。

以上です。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

次の項目で、県の教育委員会に要望できないかということで、取り上げている項目が4つほどありますので、質問させていただきます。もしその件を要望していましたら、その後の展開、進捗も併せ伺いたい。

1つ目、国際情勢の不安定化、国民の食料安全保障等、農業を取り巻く環境の変化から、これからこそ農林高校が必要とされる社会になってきています。スマート農業を目指したドローン等の整備、教育の実現、これ講師とか機材の購入、ドローンを使った資格取得支援事業等の具体的な取組は要望されているのでしょうか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

県教育委員会への要望として、スマート農業を目指したドローン等の整備、それに伴う環境整備、資格等々のご質問がありました。

これまで、県教育委員会の方へ要望、意見を上げております。ドローンを使った農業であるとか、施設の栽培環境制御システム、AIを活用した最新のな機器の導入等を要望しております。

こういったことをこれまで要望しておりましたが、農林高校の方に尋ねますと、「要望するのはいいんだけど、専門性を持った職員がいない」ということを話されました。ドローンは工業系でないとなかなか操作できません、そういう先生はいませんということです。ですので、村内のドローンの操作等を行っているラポーザさんの方に紹介をした経過もございます。

今後とすれば、県へ要望書を提出の際は、教育内容や用途に応じたAI機器の導入とセットで、外部機関との連携の面での予算づけ等々を要望していくようにしていく必要があるかなと考えています。

以上です。

#### **議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

#### **4番 山本隆樹 議員**

ドローンの活用というのは、今言われたように、工学系とか何か大きな機械になって難しいというような先生の話も聞きました。その中でできる限りの要望をしていっていただきたい。

実際、今、農業高校で聞くと、温室栽培の自動温度管理とか水田の自動給水器によるスマート水管理等、そういう形でちゃんと実用で調整、実現されているようです。その中に、やはりドローンという形で、今後の農業の在り方を進めていけるような取組も要望していっていただきたいと思います。

では、2番目の農業のいく末を見つめ、リカレント型教育を取り入れ、学生だけでなく岳北地域の企業等人材を育て、地域の農業の未来と一緒に開拓できる取組を県へ要望をしていっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### **議長（勝山 正）**

関教育長。

#### **教育長（関 孝志）**

地域キャンパス化に関わらず、下高井農林高校の魅力ある特色ある学びを実現するために、やはり単独では難しい。外部機関との連携の中で、今議員が話されたような学び直しをしたり、免許が取れるような、そういうリカレント型の教育も要請が出てくると思います。であれば、協議をして考えていきたいと思います。

#### **議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

#### **4番 山本隆樹 議員**

今リカレント型教育っていうよりも、飯山市で「百姓塾」という公民連携活動の一環として、会場を下高井農林高校の教室、敷地、年4回実施しています。そして、その百姓塾の講師は、高校生が務めているという形で、一般の人と今度は先生が高校生、農林の人が講師を務めている。そんなような形で、就農したいとかこれから農業をやってみたいなという人を連れて、年4回、百姓塾というのを下高井農林高校の教室と敷地を借りて、今、実際やっています。本当にそういう形で、農業高校の大きな役割を地域として、飯山市も活用していこうという形で取り組んでくれているんですね。

村としても、やはり農林高校の生徒が自信を持って、先ほど言ったように、保育園だとか小学校と

か中学校行って交流したり教えたりしていく、そういう魅力ある生徒づくりを高校として実施しています。

そういう役割を、これからも村としても何か具体的な案があれば提案して、一緒になってやっていける取組を今後していただきたいと思いますと思うのですが、いかがでしょうか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

地域との関わりの中で生まれてきた「百姓塾」、私も調べてみたいと思います。

小学校、中学校、保育園ですが、農林高校生を交えて草花を育てたり、収穫したりということで交流は行っています。これから考えるとすれば、小学5年生が取り組んでいる米づくりに、農林高校生が参加していただいてもいいかなと、今、お話の中で感じました。

できることを保育園、小学校、中学校の教育活動の中に取り込んでいくとそういうことを考えていきたいと思います。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

**4番 山本隆樹 議員**

中学校の先生方がそういう農林高校の姿を見て、農林高校ってこういう形で人を育てているんだ、こういう形で自信もって学んでいるんだというのを、中学校の先生がしっかりと自信持って農林高校いいぞと言うような、アピールができるようなぐらい自信を持てる生徒づくりにしていければ、地域としてもいいなと思っております。

3番目に、これからキャンパス化になったりして生徒数が減ったりしてくると、今空いている教育施設とか設備の活用が大きな問題になってくるっていうより、活用を展開したことを視野に入れた形で、県の所有なので勝手にはできないかもしれないですけど、村として、そういう手のつけられなくなったところを上手に何か活用していける、例えば民間が活用して、それを学生が勉強の場としたり、そういう取組、要望というのはできないんでしょうか。

**議長（勝山 正）**

関教育長。

**教育長（関 孝志）**

施設の利活用ということでご質問です。

今言われたように、施設は県教育委員会の持ち物ですが、まずは農林高校には同窓会がございます。それから地域連携推進連絡協議会という組織があります。そういう中で、どのような活用ができるか、どんなふうに使っていったらいいのかという協議をする中で、農林高校にとって、地域にとっても適切な利活用になるようにしていくことが大事ではないかなと考えます。

以上です。

**議長（勝山 正）**

山本隆樹議員。

#### 4番 山本隆樹 議員

最後に、4番の北信地域振興局、北信農業農村支援センターからの支援、協力による農林高校の更なる魅力アップ、農林業に関する入門的研修、講座の受入れ等、北信農業農村支援センターというのは新規就農の方と、受け入れて説明会開いたり、実習したり、いろんな形で活躍しているセンターなんです。だからどっちかっていうと、農業の学習を通じていないと学ぶことができないぐらい、農業の大切さ、林業の大切さをまず基礎から教えてくれていると、すぐ百姓をやるっていうんじゃない、農業、山林の大切さ、例えば多面的機能、土砂崩れを防ぐ、地下水を作る、地球環境保全機能として大切だという座学からしっかり学ばせてくれて、参加する人も熱心に就農を試みるような講座になっています。

こういうところの先生方をしっかり、農林高校ではないですけど、先ほど言ったように、農業を知らない生徒、農業を経験していない生徒とか本当に今多いんですね。だから入ってくる子たちもどっちかっていうと農業をしたいっていうことよりも、人を育てる高校にしていけないと、やはり農業高校の魅力っていうのが伝わっていかないとと思います。

そういうところで本当に、いろはではないんですけど、キャンパスになっても農業、林業の大切さをしっかり教えて、これから農業の学習を通じないと学ぶことができない、そういう農業活動からの社会人を養う講座を北信農業農村支援センターからの支援をいただけないか、それをちょっと要望していただけないでしょうか。

#### 議長（勝山 正）

関教育長。

#### 教育長（関 孝志）

私としては、今、山本議員のおっしゃった思いに同感です。

農業高校として、学校単独で魅力ある学校づくりや特色ある教育課程はできません。関係機関と連携を今まで以上に太くしていく必要があると思っています。

その中で、いろいろな企画が立ち上がり、それが形になって、農林高校の魅力アップにもつながっていきける、そういうことを含めて応援していきたい、そういうことを県の方に要望していきたいと考えております。

以上です。

#### 議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹議員の質問は終わります。

（終了 午後2時48分）

#### 議長（勝山 正）

以上で、本日の日程は終了しました。

この際、申し上げます。

本日の会議における発言について、後日、会議録を調査し、不適切発言があった場合には、議長において善処いたします。

本日はこれで散会します。ご苦労さまでした。

（散会 午後2時48分）